

第 26 期横浜市スポーツ推進審議会第2回会議 会議録	
日 時	令和5年8月1日(火)18時00分～19時30分
開催場所	横浜市役所 18階 みなと4・5会議室 及び Web 会議
出席者	山口会長、大日方副会長、石塚委員、小熊委員、小田委員、鈴木委員、林田委員、平井委員、藤委員、矢島委員、結城委員、依田委員(計12名)
欠席者	石黒委員(計1名)
開催形態	公開(傍聴者なし)
議題等	1 議題 令和4年度横浜市スポーツ推進計画の進捗状況 2 報告事項 本牧市民プールオープンについて
開 会	開会、定足数確認、にぎわいスポーツ文化局長あいさつ
議 事	<p>議題 令和4年度横浜市スポーツ推進計画の進捗状況</p> <p><資料に基づき事務局から説明></p> <p>(山口会長)</p> <p>ただいま事務局から説明がございましたが、内容につきまして委員の皆様からご質問やご意見を頂戴したいと思います。では、鈴木委員、お願いします。</p> <p>(鈴木委員)</p> <p>質問ですが、目標値の達成状況のところ、例えば「子どもの週3回以上のスポーツ実施率」というのは、何を目的としているのか教えてください。子どもが週3回以上スポーツをすることで、健康増進とかコミュニティの拡大とか、そういった達成する意味みたいなものがあれば教えていただきたいと思います。</p> <p>(教育委員会事務局)</p> <p>学校の中で体を動かす機会を増やすことが主な目的になります。体を動かす楽しさを身につけることによって、放課後の時間等に体を動かしたり、スポーツを促進していくために週3回と設定させていただいております。</p> <p>(鈴木委員)</p> <p>ありがとうございます。この数値を見ていて、スポーツをやってきた私の感想ですが、スポーツに関わる子どもは意外と少ないなと思いました。成人に関しても、スポーツというものに関して数値がすごく低いというのが印象的でした。私自身も現場でやってきた感覚がメインになりますけれども、皆さんの意見も聞きながら何か対策を考えていきたいなと感じました。以上です。</p> <p>(山口会長)</p> <p>ありがとうございます。それでは、林田委員、よろしくお願いします。</p> <p>(林田委員)</p> <p>横浜市の多岐にわたるスポーツの取組を聞き、勉強になりました。私は今、桐蔭横浜大学で体育の教員を目指す子たちを見ていて、教育実習に行ったりもするのですが、今ご報告いただいたことをちゃんと分かった子たちを育成していかなければいけないなと思いながら聞いておりました。以上、感想でございます。</p>

(山口会長)

ありがとうございます。それでは、依田委員、お願いします。

(依田委員)

様々な取組を成されていることが非常によく分かって勉強させていただきました。

「障害者の1年に一度以上のスポーツ実施率」が特に伸びてきております。それは、こちらにある「スポーツを通じた共生社会の実現」という取組に参加した人たちがこの数値を上げてくれたのかなと思ひまして、もし可能でしたら、この調査がいつどういう人たちを対象に行われたのか教えてください。

(事務局)

こちらの調査は令和4年度の意識調査になりまして、10月から11月の約1か月間、インターネット調査を行っております。横浜市民約2000人、障害者の方は200人の方を対象に調査を行っております。

(依田委員)

これだと18歳以上が対象になっていますが、「子どもの週3回以上のスポーツ実施率」というのは、親が答えたということでしょうか。

(事務局)

子どもの部分に関しましては、教育委員会で行っている調査になります。

(依田委員)

分かりました。ありがとうございました。

(山口会長)

それでは、大日方副会長、お願いします。

(大日方副会長)

私も障害者のスポーツ実施率が非常に高くなっているところには着目しております。84%ということで、他の自治体と比べても高い結果が出ているのではないかと考えております。実際、何がよい影響で目標を達成することになったのか、そのあたりの分析がもし分かるようであればうれしいです。

一方で、今後大切だと思うのは、するスポーツだけでなく、みるスポーツというところでも、障害のある人たちが観戦しやすい、一緒に見る機会をどのように定着させていけるかというところだろうなと思います。以上です。

(事務局)

障害者のスポーツ実施率が非常に高かったことについて、分析はまだ確実にはできていませんが、横浜市ではラポールという、障害者スポーツをしっかり支えている施設があり、そこでいろいろ取組を展開しています。さらに、この推進計画をつくった時に、共生社会を実現していくことを掲げ、障害者を含むインクルーシブのイベントを徐々に展開し、参加していただいているということが実施率上昇の一因ではないかと考えております。

ただ、イベントだと、1回やってしまうとその後が続かないということがありましたので、それをどのように継続してやっていただくのが課題かなと考えております。以上です。

(山口会長)

それでは、石塚委員、お願いします。

(石塚委員)

資料2の進捗状況2ページ目に、「市内でのスポーツイベント直接観戦率」とありますが、こういうのが横浜市らしいなと思っています。まさしくこの推進計画の概要にもあるような横浜スポーツパートナーズという、こういった横浜の地域資源が生かされている結果で、横浜市らしい、非常に重要な指数になってくるのではないかと思います。どうしても指数というのは「する」スポーツに寄っていくのかなと思いますが、「みる」ことによる心の健康ですとか、こういう新たな地域資源を生かす指数というのは非常にいい傾向だなと思いました。

また、どうしてもスポットでイベントのような形でのスポーツへの参加が多いと思います。スポットからいかに定着化するかが一つポイントかなと思いました。スポーツ実施率に関しては、スポーツ庁が出している令和4年度の全国平均が 52.3%だったので、横浜市は少しポイントが高いのかなと思いますが、どうしても同じ方が同じ教室に定着するという傾向があるので、その辺が少し課題かなと思ったのが2点目です。

3点目は、部活動の地域移行に関してです。部活動指導員等の先生に代わる指導者を配置するということが直近の課題だと思うのですが、まさしくスポーツパートナーズのような、横浜だからこそその資源を生かした持続可能な体制づくりというのが必要だと思っています。人材の置き換えや派遣モデルではなく、部活の今までのものを継承しつつ、新しい価値をつくっていくという意味では、今まで参画していただけていなかったようなスポーツチームですとか、様々な地域資源、指導者、施設と、そういった新しい形をつくっていく必要性が大きいと思っています。部活動の地域移行というのは、今後、スポーツにおけるまちづくりにも発展するのではないかと考えておりますので、ぜひそういうところにもさらに踏み込んでいけるといいのかなと思いました。

(山口会長)

それでは、小熊委員、お願いします。

(小熊委員)

まず、スポーツ実施率を聞く際は、スポーツというものをどう定義するかで変わってきます。スポーツ庁の調査もその辺が少し課題として取り上げられたりもしますので、どのように定義されているかは示しておかれるといいかなと思いました。

あと、いつからインターネット調査になったのかというのは、変化を見るポイントになるかなと思ったので、教えていただきたいと思います。

あともう一つ、先ほど横浜市の中期計画が昨年度できて、基本戦略が「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」ということで、そこに力を入れていくというのを資料で見させていただいたのですが、取組3の中で、経済局が所管している健康経営関連のことがスポーツ推進計画の中にこのように位置づけられているのがすばらしいなと思いました。実際、この辺がどれくらい進んでいるのか、スポーツのほうからどんなふうに見られているのか、もし現状で分かることがあれば教えていただければと思います。

(事務局)

まず、スポーツの定義というのは、国の調査なども参考にはしているのですが、基本的には体を動かすということで、スポーツ実施率にはペットの散歩なども可としています。

また、平成 26 年からインターネット調査をしています。

最後の経済局の件については、後ほどお調べしてメール等で回答させていただければと思います。

(山口会長)

それでは、小田委員、お願いします。

(小田委員)

ラポールという施設のことですが、これは、施設としては横浜市の外にあると考えていいのでしょうか。

(事務局)

横浜市の施設です。横浜市が設置して、指定管理を事業団にお願いしているという形で、所管が健康福祉局になります。

(小田委員)

所管はにぎわいスポーツ文化局ではないということですね。障害者の方のスポーツという意味では、ラポールは一度だけ見せていただいたことがあるのですが、いろいろな施設があつて、職員の方もいて、ボウリング場まであるのを見てびっくりしたのですが、ああいうところをどうやって活用していくかということをもっと全体で考えていかないと、施設が孤立してしまうのではないかという気がしました。

もう一つ、学校のスポーツというのが多分、劇的に変わってくるのではないかと思うのですが、これは、横浜市の中でどこがイニシアチブを取ってやっていくのでしょうか。

(事務局)

基本的に学校でのカリキュラムの体育や中学校での部活動は教育委員会が、それ以外の外の部分については、スポーツ振興課で進めていくことが必要であると考えております。

(小田委員)

部署が変わると事業内容が見えなくなるということがないように、しっかりと手綱を握るような部署を市としてつくっていただきたいというのが要望になります。

(山口会長)

それでは、平井委員、お願いします。

(平井委員)

我々スポーツ推進委員は、この計画の実行部隊という認識を持って、既にいろいろな研修を行っています。特に共生社会の実現ということで、この7月にもスポーツ推進委員が集まって、ラポールで座学と実地の研修を行いました。緑区が今、中心となって動いているのですが、今後、知的障害、精神障害の方々にも体を動かす機会を多くつくっていただきたいということで、緑区で持っているカローリングという、氷上ではなくフローリングの床の上で簡単に投げればいだけとか、打てばいだけとか、そういうニュースポーツの用具を、こちらから障害者施設のほうに出向いて職員さんと一緒にまず実地で学んでいただいて、それぞれの余暇活動の中で、例えばグループホ

ームの中で土曜とか日曜にやっていただくとか、そういった形で今後も我々が中心となってやっていきたいと思います。

また、子育て世代ということで、6月にスポーツフェスティバルというのを区のスポーツ協会とさわやかスポーツ普及委員会、スポーツ推進委員が中心となって行っています。スポーツセンターで小さいお子さんからお年寄りまで3世代にわたって、その場でいろいろなスポーツができるということで、専門的なスポーツからニュースポーツまで体験していただいています。これはすごい人気で、午前・午後で500名ずつぐらいの予約を取っても3日ぐらいで埋まってしまいます。これも毎年続けていきたいと思っております。

(山口会長)

先ほどのニュースポーツの道具は、継続的に施設に置いて、施設で使ってもらおうという感じですか。

(平井委員)

はい。私が今お世話になっているホームは10~20ぐらいありますが、定期的に、カローリングとポッチャ、スカットボールなどを貸し出し、自由にやっていただいて、それを定期的に回るような形でやっています。

(山口会長)

ありがとうございます。それでは、藤委員、お願いします。

(藤委員)

中学校体育連盟の立場で感想をお話しさせていただければと思います。中学校体育連盟は、まさに学校体育と運動・スポーツの推進・発展というのを目的につくられている組織で、メンバーとしては、中学校保健体育科の教員、運動部活動の顧問ですので、横浜市の中学校の先生の8割から8割5分が我々の仲間かなと思っています。実際にどんなことをやっているかという、保健体育の授業の研究授業づくり推進ということと、市教委が主催しています市の中学校総合体育大会、総体といわれているものの大会運営を委託されているということ、横浜のスポーツ団体の皆さんと協力しながら共催大会を運営しているというようなことで、学校保健体育と運動・スポーツというあたりの推進をさせていただいております。

今日のお話の中では取組4のところ中学校と関わるころかなと思っています。運動部活動の充実や推進とともに、教員の働き方改革ということで、これまで教員が担ってきた中身を少し地域に移行したり、資料に書いてあるような741人の部活動指導員を配置していただいています。中学校は145校あるので、平均すると1校に5人ぐらいかなと思いますが、その中には例えば吹奏楽部の指導員もいたりするので、運動的なことという3人から4人ぐらいではないかと思っています。

地域移行については、今は国も少しトーンダウンしているのかなという認識でいるところですが、平日は教員が子供たちの指導をして、休日だけほかの人に預けることに対するアレルギー感というのを現場の先生たちは持っています。

本当に預けるのであれば平日から休日までお願いしたいところなのですが、多分、平日に部活動の指導ができる方は本当に少ないと思うので、こういったところでこれから先、どんなところを見据えてやっていくのか。横浜としては持続可能な部活動とうたっているのですが、学校の中から部活動

を取り上げる発想はないと所管課は言っていますが、どうやって教員の指導と地域の方の指導を共存させていくのかというのは、これから先、大きな課題かなと思っています。また、働き方改革という視点で言えば、小中学校企画課とも話はしていて、何とか市総体は土曜日開催ということで、令和8年度の完全実施に向けて今、一緒に取り組んでいるところです。

もう一つは、目標値の達成状況になりますが、(5)の「子どもの週3回以上のスポーツ実施率」の「子ども」というのが小中学生なのか教えてください。中学校は大体、横浜のレベルだと7割ぐらいの kiddo が運動部活動に加入していて、平日4日、休日1日やっていますから、地域で野球をやったりバドミントンやったりサッカーやったりという子たちもいますので、かなりの人数は週3回以上スポーツを実施しているのではないかと勝手に思っているところです。

(事務局)

こちらの調査は横浜市の体力・運動能力調査というものを基にしておりまして、横浜市内の全小中学生にお願いしている調査で、対象は小学生と中学生です。おっしゃるとおり中学校は部活動がありますし、外部でのスポーツ活動も多いので、中学校から小学生低学年にいくにつれて実施率が少なくなっています。ただ、これも一概には言えず、男女の間でも大分大きな差が出ており、中学生も3年生になっていくと女子の実施率が低くなっていくなど、それぞれ細かく分析していないと、なかなか一律に全体でのところは言いにくいような状態ですので、またどこかでそういったデータもお示しできればと思います。

(山口会長)

それでは、矢島委員、お願いします。

(矢島委員)

私は小学校体育研究会ですので、小学生の取組等についてお話しさせていただきます。小学校体育研究会は、年に1回、オリ・パラスポーツフェスティバルというものを主催してやっております。横浜ラポールさんとカボッチャ協会さん、フライングディスク協会さん等の協力を得まして、横浜国際プールで昨年度は約 300 名の子供たちが参加しました。今年度も募集をかけて、200 以上の子供たちと 12~13 校の学校が参加して 11 月に行うことになっています。昨年度、自分の学校の子供たちを参加させたのですが、ボッチャとか、フライングディスクとか、なかなか関わることのないような競技に参加して一緒にそれに取り組むということで、子供たちの目が非常に輝いており、私たちとしても共生社会を進めていきたいと思っております。

ただ、会場を借りる資金などに非常に困っています。今後、先を見ると、これが本当に持続可能な取組として続いていくのかというのが1つ懸念されているところです。

もう一つは、教育委員会さん主催で実技発表会というのを横浜武道館で行っております。各区から1校、1クラスもしくは1学年、横浜市小学校体育研究会会員の学校から代表が出てきて、1年間取り組んできたことを横浜武道館で発表するというようなものです。昨年度はコロナ渦での人数制限等で出られないというのがあったのですが、今年度は人数制限を取っ払ってやることになっています。今、横浜市体育研究会の実技発表委員会が計画し、12月の開催に向けて取り組んでいます。以前はそれに加えて球技大会とか水泳大会、体育大会がありましたが、働き方改革等も含めてそのあたりの大会がなくなってしまいました。特に体育大会は、6年生全員が参加して同じ演技で踊るもので、何年か前の成人式ではその曲をかけたらみんな踊れたという、非常

に伝統のあるものでした。それがなくなってしまうとすごく残念だなと思っていますので、ぜひこのオリ・パラスポーツフェスティバルのほうは何とか今後も継続させていきたいと思っています。

小学校は、コロナの3年を経て、子供たちの運動への関わりが減っているなと思っています。これは何とか私たち体育研究会で今後進めていけたらいいなと思っています。

(山口会長)

それでは、結城委員、お願いします。

(結城委員)

今年の話ですが、横浜市のワールドトライアスロンのパラを特に見たいと思い、時間を確認したところ朝の6時50分からでした。私は都内におりまして、市電がございません。先ほど大日方副会長から、共生社会の取組の中でもみるスポーツというのが大事だとお話がありましたが、継続的にそういう意識を育んでいくためには、やはりパラスポーツをご自分でやるとか、もしくは観るということが非常に大事だと思います。なるべく世界の選手とか日本のある程度のレベルの選手が来る大会では、みんなが観れる設定にされると良いのかなと思いました。

2つ目は、横浜文化体育館が培ってきた歴史を、ぜひ何らかの格好で市民の誇りとして周知するとよいと思います。私事で恐縮ですが、今年5月にお亡くなりになった池田敬子先生は、私も取材上非常に懇意にさせていただきましたが、彼女は私に、文体に展示してあった東京64のときのユニフォームであるとか、お部屋の中にあった額であるとか、その文体が培ってきた歴史と、文体が育んできたジュニアの流れを見せたかった。ジュニアの育成というのは、その当時、あまりお金もなく、場所もなかなか見つからなかったりして、非常に苦勞な中、横浜市がうんと言ってくれたと。それを池田敬子先生はご恩に感じていたのだと思います。新しく改装になった文体でも、いろいろな形で幅広そういった歴史があったのだということを発信なされたらよろしいのかなと思いました。

最後に、昨年やっていたオリパラ教育をオリンピック・パラリンピックが終わった後も何らかの形で継続するという、そのご意志はすばらしいと思いましたが、ぜひこれは来年度も続けていただきたいと思います。

(事務局)

今、文化体育館の後、横浜BUNTAIという形で施設整備をしている最中ですが、文化と名前もついていますので、スポーツの歴史や文化というものは継承する形で外観のデザインや展示なども含めて検討している最中です。

(山口会長)

ありがとうございます。他にご発言がないようなので、報告事項に入らせていただきます。

報告事項 本牧市民プールオープンについて

<資料に基づき事務局から説明>

(山口会長)

ありがとうございます。バーベキューは幾らぐらいなのですか。

(事務局)

バーベキューは、セット料金がありまして、3500 円のコースと 4500 円のコース、子供は 1200 円です。持込みプランもあります。

(山口会長)

ありがとうございます。他にご意見がある方はいますか。大日方委員、お願いします。

(大日方委員)

今年の暑さを踏まえた状況を教えていただければと思います。

(事務局)

日差しが非常に強くて、日陰が非常に少ない状態で、それについての広聴や要望が多数来ています。現状は自ら日陰になるものを持ち込まれているというような形になっています。あと、事業者の準備がまだ整っていないところがあるのですが、有料の屋根のついたスペース、パラソルを立てたようなところも準備しているという話を聞いております。引き続き検討していきたいと思えます。

プールサイドの床に関しては特殊な塗装をしてあって、炎天下で歩いても足がやけどするようなことはなく歩けるような塗装になっています。

(大日方委員)

日差しの対策は今後も進めていってください。

いいアイデアだと思ったのは、ナイトプールです。今後、日差しが強く、日中がなかなか難しいということになると、夜に泳ぐというのも、もしかしたら市民のニーズとしてはあるのかなと思ひまして、もうちょっと夜の時間帯の営業というのも考えていかれると非常に親しまれるプールになるのかなと思ひました。

(事務局)

ご意見のとおりナイトプールの利用は思った以上に多く、土日ですと約 900 人となっています。ナイトプールは土日祝日と、7月 18 日～8月 18 日は平日もやっております。こちらのほうもより告知してご案内させていただきたいと思ひます。

その他

(山口会長)

それでは、本日予定されている事項は全てでございます。何か委員の皆さんからご発言がございましたら頂戴いたしますが、よろしいでしょうか。

(平井委員)

今月 20 日に赤レンガでNHKのラジオ体操がありますが、にぎわいスポーツ文化局での進捗状況を教えてください。

	<p>(事務局)</p> <p>今月の8月 20 日に 1000 万人のラジオ体操祭ということで、全国を回って毎年この時期にやるラジオ体操のお祭りがございます。今年度に関しては横浜の赤レンガ倉庫でやる予定なのですが、赤レンガの場で一緒に体操する方の募集は締切りをさせていただきました。大体 1500 人ぐらいと主催のかんぽ生命さんから伺っております。倍率が4倍ちょっとという形で、ラジオ体操をされている方が全国から来られて、その後、回遊もしていただきたいと思い、いろいろな策を今やらせていただいています。当日はNHKで放送が流れますので、もしよろしければ、ご覧いただきながら一緒にラジオ体操していただければ幸いです。</p> <p>(小熊委員)</p> <p>ラジオ体操つながりで、大学がやっている取組の情報提供です。</p> <p>慶應義塾大学の日吉キャンパスがある港北区と、湘南藤沢キャンパスのある藤沢市とで、コロナ禍にオンラインラジオ体操というのを始めました。ちょうど今日から5日間、1日ずつオンサイトをやる予定で、3日は藤沢市役所で、5日は慶應義塾大学日吉キャンパスの陸上競技場で行う予定です。オンラインの方はどなたでも Zoom と YouTube で入れますので、もしご興味のある方はご覧いただければと思います。</p>
閉 会	スポーツ統括室長あいさつ、閉会
資 料 ・ 特記事項	<p><配付資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・席次表 ・第1回会議議事録 ・【資料1】第 26 期横浜市スポーツ推進審議会の審議スケジュール(案) ・【資料2】令和4年度横浜市スポーツ推進計画の進捗状況 ・【資料2 別紙】第3期横浜市スポーツ推進計画の進捗状況【令和4年度実績】 ・【資料3】本牧市民プールの概要 ・令和4年度横浜市民スポーツ意識調査報告書(概要版) ・第3期横浜市スポーツ推進計画(概要版)